

2025年11月21日高槻芥川城跡周辺で観察した植物

作：岡田弘

タカサゴユリ（高砂百合）ユリ科ユリ属 *花期＝7～9月

名前の由来＝台湾を意味する古称である「高砂国」に由来する。台湾原産の百合で現地では「台湾百合」とも呼ばれている。山岳部に高砂族と言われる民族がおり、親日的だと言われている。私も20年ほど前に剣御前小屋と一緒に話をしたことがある。タカサゴユリはテッポウユリに似るが茎が太く葉が細く茎が太くて丈夫であるので、花が終わった後でも直立して種子の鞘を上に向けており、その中には何百と無数の種子が入っており、1.5mにもなる丈から種子を飛ばし繁殖。日本には1924年に観賞用として移入したのが逸出して野生化し帰化植物となった、テッポウユリとの交雑も多く変異も多い



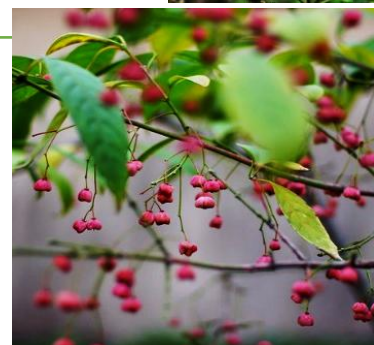
イヌコウジュ（犬香需）シソ科イヌコウジュ属 *花期＝9～10月

名前の由来＝漢方で使われる香需似ているが、役に立たないので「犬」を冠した。コウジュと名のつくものは、ナギナタコウジュ、ミゾコウジュ、スズコウジュ、がある。特にナギナタコウジュは薬効が多くある。山野の道端や草地に生える、直立して枝分かれして全体に細毛が多い、茎には四稜あり紫色を帯びることが多い、葉には匂いを発する腺点があるので同定の時には、葉を取って匂いを嗅ぐ、独特の香りがする。花は枝先に花穂を出し2～4mmの小花柄の先に淡紅紫色～白色の唇形花を多数つける。植物には動物の名前を冠したのが多い、犬、ねずみ、からす。すずめ、等々これらは人間が食べれない、薬効もない、木材であれば、家具、建築材などに使えない物に、これら動物名を冠している。



マユミ（真弓）ニシキギ科ニシキギ属 *花期＝5～6月

名前の由来＝昔この材を使い弓を作っていたことに由来。日本全国に分布、中国。北東アジア淡紅色の果実は熟すと4つに裂けて内から赤い種子が現れてぶら下がる。関西ではそら組でも数度訪れたことがある岡山植物園のマユミ林はピンクの花が咲き競っているかと思うぐらい淡紅色に染まる。落葉低木、高木、で明るい場所を好み、紅葉も美しいのでヤマニシキギとも呼ばれており庭木などにも利用されている、1年めの材がしなやかで強いので弓に、又、太い材は将棋の駒に使われている。ツリバナとの違いは種子の裂け方、ツリバナは5裂する。



*花言葉＝あなたの魅力を心に刻む・真心・艶めき

コバノガマズミ（小葉筭簋）ガマズミ科ガマズミ属 *花期＝4～5月

名前の由来＝諸説あり判然としない。①果実が酸っぱい実だから噛まずに吐き出すので「噛まずの酢実」が転訛して「ガマズミ」になった。②鎌の柄に用いられる酸っぱい実を指す木であるので「カマ」実を染料に使っていたことから「ズミ」となった。③「噛み酢実」と呼ばれたことから「ガマズミ」になった。④神の実であることから、等々ある。果実は焼酎に漬けると疲労回復、滋養強壮に効くと言われている。関東以西～九州の明るい2次林に生える低木、葉の両面に星状毛がありピロロド感覚の手触り *花言葉＝無視したら私は死にます・等々



ヤブムラサキ（藪紫）シソ科ムラサキシキブ属 *花期＝6～7月

名前の由来＝①紫の実を多くつけるので、紫藪実（むらさきしくみ）と言われて言われていたのが、いつの間にか紫式部となった。②ムラサキシキブと似ているが、実の付も少なく劣るのでヤブとした。③ヤブムラサキは葉の表裏に星状毛が多いのでヤブに例えた。④江戸時代に植木職人が植木が売れるように、紫の実を付けるので美しい紫式部を連想させるように名前をつけて売った。等の説がある。ヤブムラサキはムラサキシキブに比べ実を付けるのが少なく山野に自生している、又、葉の表裏に星状毛が多くフワフワした感触はピロロドに触れているようです *花言葉＝聡明



サルトリイバラ（猿捕茨）サルトリイバラ科シオデ属 *花期＝4～6月

名前の由来＝つる性の茎が棘を持っているため、猿が引っ掛かりそうな感じがする。と言う意味で「猿捕りイバラ」と呼ばれるようになった。又、猟師が猿を捕まえるために、この丈夫なツルを用いたのでこの名が付いたとの説。日本中の山野に自生する雌雄異株の蔓性植物、秋に直径1.5cm位の赤い実をつける、長期間褪色しないのでリースの材料として重宝されている、若葉は食用出来クセがなくおひたし、和え物などに、葉に餅を包み。サンキライ餅、等、各地で様々な名前が使われている、赤い実は生食も出来る、焼酎に漬けて果実酒にもなる。根は乾燥させ煎じて、利尿、解毒などに効果がある、リュウマチの体質改善にも、漢方ではバツカリと称して使用 *花言葉＝不屈の精神・屈強・元氣・

